

## A-15) 新生児頭蓋内出血7症例の検討

浜田 秀雄・桑山 直也  
遠藤 俊郎・林 央周 (富山医科薬科大)  
高久 晃 (学脳神経外科)

【目的】新生児における頭蓋内出血は比較的稀な疾患で、外傷、血液凝固異常、低酸素症、未成熟などに伴い発症することが知られている。我々は新生児に発症した頭蓋内出血7例について検討した。

【方法】1980年以降当施設で経験した新生児頭蓋内出血は7症例(男児6例, 女児1例, 平均日齢は2日)であった。その内3例は脳実質内出血(脳動静脈奇形, 星芽腫, 原因不明が各1例), 2例は脳室内出血, 2例は外傷による硬膜外および硬膜下血腫(各々1例)であった。全症例に血腫除去, ドレナージ, シヤント術などの外科的治療を施行した。治療後の追跡期間は3ヵ月から17年である。

【結果】7例中4例の追跡結果は良好で、神経脱落症状はなく正常に発育している。3例では神経脱落症状あるいは精神発達遅滞を認めている。

【結論】生後間もない新生児の頭蓋内出血に対しては積極的かつ迅速な外科治療が重要である。また、病因が明らかな場合は、その基礎疾患に対する適切な管理・治療と長期の経過観察が必要である。

## A-16) Dorsal IC dissecting aneurysm の2例

鈴木 直也 (青森労災病院)  
脳神経外科  
乙供 通則 (おっとも脳神経)  
クリニック

Dorsal IC aneurysm は術中破裂が生じやすいことやクリッピング困難例が多いことが認識されているが、なかには dissecting aneurysm があったことを証明し、それゆえ根治をめざす上で neck clipping が妥当な strategy かという点に疑問を唱える報告もある。我々はクモ膜下出血で発症した2例の IC dorsal aneurysm を経験した。一例は術中所見から、もう一例は術前血管造影から dissecting と診断した。

【症例1】27歳男性。排便後に突然の頭痛で発症。術中に破裂し IC 外壁の穴から出血していた。IC を頭蓋内で trapping 施行した。採取した wall は脆弱で内腔に壁在性血栓を認めた。

【症例2】41歳女性。頭痛で発症。右 CAG で、解離した IC dorsal の内壁が IC を途絶させたり再開通させたりする変化がとらえられた。血管造影側面像では解離内膜が描出されるが MC の重なりと見誤りやすい像で

あった。頸部 IC の結紮と STA-MCA anastomosis を行った。

【考察】① Dorsal IC aneurysm は dissecting aneurysm である可能性は否定できない。②血管造影側面像で MC の重なりに隠れた内膜解離像の読影を見落す可能性があり判読に注意が必要である。③血行再建の準備を整え trapping, proximal occlusion をめざすのが合理的と思えた。

## A-17) 観血的治療を施行した内頸動脈瘤24例の検討

山口 成仁・光田 幸彦 (浅ノ川総合病院)  
大西 寛明 (脳神経外科)  
山口 成仁・木谷 隆一 (富山労災病院)  
脳神経外科

1995~97年に観血的治療を施行した内頸動脈瘤24例について血管造影所見および手術所見を検討したので報告する。症例の内訳は未破裂動脈瘤 (URA) 12例, 破裂動脈瘤 (RA) 12例で、平均年齢は URA が 59.6 才, RA が 64.1 才であった。URA 7例に key-hole surgery, 4例に通常の開頭手術, 1例に STA-MCA 吻合術後 IC-ligation を施行した。RA 12例は全例に開頭手術を施行した。動脈瘤の向きは gabel 1例, post-lat 15例, post-med 3例, post 2例, ant-med 2例, ant-lat 2例であった。18例に clipping を施行, 他は coating 又は wrapping に留まった。血管分岐と無関係であった動脈瘤を6例認めた。IC の ant-wall より発生した例, post-projection を示した例, optic N 間より clipping を施行した例等をスライドに示し考察を加える。

## A-18) 窓形成を伴った前交通動脈動脈瘤の手術経験

向井 裕修・泉 祥子 (公立能登総合病)  
橋本 正明 (院脳神経外科)

【目的】窓形成を伴った前交通動脈 (Acom. A) 動脈瘤の手術経験を報告する。【方法】対象は1987年4月よりの10年間で当科で経験された Acom. A 動脈瘤52例中、窓形成を伴った6例である。

【結果】2例において fenestration があることで術中に一時 disorientation となった。何れも術前の血管撮影で fenestration の存在は解らなかつた。1例は動脈瘤の柄部に clip をかけたつもりが、剥離した結果それ

が double A com. A の 1 本と判明した。動脈瘤の柄部はさらに A 2 の末梢側にあり clip をかけなおした。術後に retrospective に血管撮影を検討してもやはり fenestration は解らなかつた。動脈瘤の向きは上方が 4 例、外側が 1 例、上後方が 1 例であった。動脈瘤の柄部が確認されれば clipping は特に問題なかつた。

【結論】Acom. A 動脈瘤の手術に際しては常に anomaly の可能性を念頭に置くべきと思われた。

#### A-19) 脳梁周囲動脈 (A 4) に生じた破裂囊状動脈瘤の一例

加藤 秀明・成田 徳雄 (米沢市立病院)  
脳神経外科

【症例】症例は 60 歳女性。頭部外傷の既往はない。平成 9 年 12 月 12 日突然の頭痛にて発症。脳 CT にて、大脳半球間裂に強いくも膜下出血を認め、入院となった。脳血管撮影にて右前大脳動脈遠位部 pericallosal artery (A 4) と paracentral artery 分岐部及び左中大脳動脈分岐部に計 2 個の脳動脈瘤を認めた。CT 上の血腫分布より pericallosal artery 分岐部動脈瘤が破裂性動脈瘤と考えられ、Day 3 に手術施行した。腹臥位にて、右頭頂開頭を行い、大脳半球間裂より脳動脈瘤に到達した。動脈瘤は、血管分岐部に頸部を有し、大脳鎌下方にのびた囊状の動脈瘤であった。Sugita clip にて頸部 clipping を行った。術後遅発性脳虚血症状は認めていない。左中大脳動脈動脈瘤に対して、Day 36 脳動脈瘤根治術を施行した。術中所見より、動脈瘤の壁は厚く未破裂動脈瘤と判断された。現在神経脱落症状もなく、経過は良好である。

【考察】外傷性の前大脳動脈遠位部動脈瘤の報告は散見されるが、同部に発症した破裂囊状動脈瘤の報告は極めて稀である。その成因を含め、若干の文献的考察を加えて報告する。

#### A-20) 上小脳動脈に発生した解離性脳動脈瘤の一例

正印 克夫・池田 清延 (国立金沢病院)  
山野 潤 (脳神経外科)

くも膜下出血で発生する解離性脳動脈瘤は椎骨動脈に多く、上小脳動脈 (SCA) に発生した症例は極めてまれであり、若干の文献的考察を加えて報告する。

症例は 38 歳女性。妊娠中であつたが、胎児発育不全、

心音微弱となり、平成 9 年 10 月 26 日、当院産婦人科で帝王切開を施行された。手術中より頭痛を訴えていたが、意識は清明であつた。27 日午後 5 時突然、後頭部痛を訴え、次第に意識が低下、半昏睡状態となった。CT にてくも膜下出血が認められ、当科転科となった。28 日脳血管撮影施行、Rt. SCA の解離性脳動脈瘤が疑われ、同日手術を行った。手術は Rt. orbitocranial approach にて行い、さらに後床突起を一部削除、内頸動脈と外転神経の間より Rt. SCA を確認した。起始部に temporary clipping を行い、SCA を露出した。全周性に瘤を認め、一部が突出しており、破裂部位と考えられた。これを miniclip で clipping し、さらに全周を wrapping した。平成 10 年 1 月 14 日自宅退院したが、記憶力低下を認めており、経過観察中である。

#### A-21) 破裂左後大脳動脈瘤 (P 3) に対する急性期手術例

—Occipital Interhemispheric Approach の有用性—

蘇 慶展・斎藤 桂一 (山形県立新庄病院)  
院脳神経外科  
鈴木 保宏 (東北大学)  
脳神経外科

今回我々は急性期の破裂左後大脳動脈瘤 (P 3) に対して、Occipital Interhemispheric Approach をもちいて根治術を行い、良好な結果が得られたので報告する。症例は 59 歳男性、平成 8 年 8 月 16 日突然の頭痛にて発症、意識障害が出現し、当院に搬入された。CT では左迂回槽～橋前槽、四丘体槽の SAH が観察された。脳血管撮影で、左後大脳動脈遠位部 (P 3) に動脈瘤が認められたため、入院当日脳室ドレナージと同時に根治手術を施行した。本 Approach は Working Space が十分に得られ、Clipping も容易であつた。術後の神経脱落症状なく、同年 9 月 11 日に独歩退院となった。Occipital interhemispheric approach の有用性について、我々の経験を報告する。